

研 究 分 野	病理	部 名	研究開発部
研 究 課 題 名	養殖水産動物保健対策推進事業		
予 算 区 分	国補 (県1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	S.56 ~		
担 当	上原子 次男・田村 直明・沢目 司・松田 忍		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

県内の養殖生産者等に対し、養殖衛生管理及び疾病対策に関する技術・知識の普及、指導等を行い、健全で安全な養殖魚の生産を図る。

〈結果の概要〉

1 総合推進対策

養殖衛生対策を具体的に推進する上で、必要な事項について検討する全国養殖衛生管理推進会議(表1)、更に、隣接する複数の道県等で構成される地域合同検討会(表2)に出席した。また、県内の内水面養殖業者等を対象として魚類防疫会議及び魚類防疫検討会(表3)を開催した。

表1 全国養殖衛生管理推進会議

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
10月20日	東京都	都道府県、農林水産省消費安全局、水産庁、水産庁九州漁業調整事務所、(独)水産総合研究センター、(独)水産総合研究センター養殖研究所、(社)日本水産資源保護協会 (105名)	1 KHV病への対応について 2 魚類防疫対策について 3 養殖衛生対策関連事業について 4 ポジティブリスト制度と水産用医薬品の適正使用について 5 平成19年度予算・定員要求について 6 魚類防疫を巡る国際的な動き 7 その他
3月9日	東京都	都道府県、農林水産省消費安全局、水産庁、水産庁瀬戸内海漁業調整事務所、(独)水産総合研究センター、(独)水産総合研究センター養殖研究所、北海道大学、(社)日本水産資源保護協会 (105名)	1 KHV病への対応について 2 魚類防疫対策について 3 平成19年度予算・定員要求について 4 養殖衛生対策関連事業について 5 魚類防疫関連情報 6 その他

表2 東北・北海道内水面魚類防疫地域合同検討会

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
11月16日 ～17日	仙台市	北海道・東北5県、新潟県、北海道大学(独)水産総合研究センター養殖研究所、(社)日本水産資源保護協会 (18名)	1 各道県における魚病発生状況について 2 魚病研究及び症例報告について 3 講演「サケ・マス類の疾病と防疫対策」

2 養殖衛生管理指導

水産用医薬品等の適正使用を図るため、使用実態調査(※1)及び指導(※2)を行った。また、養殖衛生管理技術等の向上を図るため、研修会(表4)へ参加し、講習会(表5)を開催した。

3 養殖場の調査・監視

水産用医薬品等の養殖資機材の使用状況調査(※1)、薬剤感受性試験(アユ、4薬品)を行った。

※1 調査：現地調査及びアンケート調査

※2 指導：現地指導及び会議(防疫会議、防疫検討会、研修会)において指導

表3 県内魚類防疫会議・県内魚類防疫検討会

開催時期	開催場所	構成員(参加者)	議 題
10月26日	十和田市	水産振興課、増養殖研究所、水産事務所、 水産業改良普及所、栽培漁業振興協会、 県営浅虫水族館、県養鱒協会、内水面研 究所 (17名)	1 平成17年度養殖水産動物保健対策推進事業の結果 について 2 平成17年度養殖水産動物保健対策推進事業の計画 について 3 平成17年度魚病発生状況について 4 KHV病について 5 ポジティブリスト制度と水産用医薬品の適正使用に ついて 6 アユ冷水病対策について 7 公共用水域における魚類のへい死への対応について 8 その他
11月28日	十和田市	内水面養殖場、サケ・マスふ化場(漁協)、 市町村、水産事務所、内水面研究所 (41名)	1 養殖水産動物保健対策推進事業について 2 魚病発生状況について 3 サケ・マス類の魚病について 4 ミズカビ防止について 5 ポジティブリスト制度と水産用医薬品の適正使用に ついて 6 KHV病の発生状況について 7 錦鯉養殖場防疫ガイドラインについて 8 公共用水域における魚類のへい死への対応について 7 その他

表4 養殖衛生管理技術者等育成研修「特別コース」

開催時期	開催場所	受講者	内 容
1月16日 ～18日	東京都	都道府県職員 (36名)	1 これまでのKHV病研究成果 (魚体内ウィルスの動態及びPCR法の確立) 2 LAMPの原理とその応用

表5 養殖衛生管理研修会

開催時期	開催場所	参加者	内 容
3月22日	十和田市	内水面養殖場、サケ・マスふ化場(漁協)、 市町村、水産事務所、内水面漁場管理委 員会、内水面研究所 (49名)	1 講演「海峽サーモン養殖確立までの道のり」 2 話題提供「ロシア見て歩き1994」 3 養殖衛生に関する情報提供について

4 疾病対策

(1) 疾病監視対策及び発生対策

養殖場等で現地指導(7月20日～2月20日:19箇所、25回)を行ったほか、検査依頼のあった病魚の診断(22件)を行った。

(2) 特定疾病対策

天然水域(河川)2箇所、個人池(鑑賞用)2箇所において、採取した検体をPCR法により検査したところ、コイヘルペスウイルス(KHV)が検出された。天然水域においては、内水面漁場管理委員会の委員会指示によりKHV病の拡大防止措置が取られ、個人池においては、感染魚の処分、消毒等必要とされる処置が講じられた。

(3) アユ冷水病対策

県内2河川で採取した検体計100尾を培養法・PCR法により検査したが、冷水病菌は検出されなかった。